



10月5日アップルの創業者スティーブ・ジョブズ氏が亡くなった。1976年20歳の時に自宅のガレージで創業、10年で年商20億ドル、従業員4000人のベンチャー企業を作り上げた。そういえばオリジンを皆と創業する前の1980年ころに、BASIC言語とコンピュータのイロハを教えた貰った静岡薬科大学環境科学研究所の村上先生の自宅に、確か「アップルⅡ」が置いてあり、そのグラフィカルインターフェイスの斬新さに驚いた事を思い出

す。村上先生は助手という立場ではあったが、研究の為に様々なプログラムを開発し、当時はしりのマイコン、パソコンにも詳しくかった。たまたま自分が勤めていた静岡市内の事務機器センターの顧客で、事務機器事務用品を納める中で個人的にも親しくなり、会社の仲間でも自主的に企画したBASICのプログラム勉強会の講師をしてくださった。さらに村上先生の奥様もプログラムをつくることができ、自分が注文を貰ってきたパソコンの業務ソフトを外注という形で作って頂いた。およそコンピュータソフトと無縁だった(興味は非常にあったが)我々が、まがりなりにもソフトハウスを創業できたのはこの村上夫妻によるところが大きい。タクシ

ーに特化した展開をするようになってからは、残念なことだがあまり縁がなくなってしまうが、我々の初期の技術的

清野吉光氏のコラム 第35回

団塊 耕 志 録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株式会社タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアソシエーツ代表取締役社長に就任。現在に至る。

「ハングリーであれ、愚か者であれ」

な基礎と素養はこのお二人から頂いた物だと思っっている。そのお二人が大ファンだったアップルは私自身とはあまり縁がなく、世の大勢のマイクロソフトの世界で、なおかつタクシー業の実務のシステムの世界で30年近く過ごしてきた。ステイブ・ジョブズという名前前はもちろん知ってはいたが、さしたる関心も共感も無く生きてきたが、今は少し後悔をしている。昨年の5月にiPadを買った。実はアップル製品はそれがはじめてではなく、その前に初期のiPodを買っていた。それは自分が買いたかったものではなく、たまたま中国にいる息子から日本の方が安いからと購入を頼まれ、秋葉原で買ったのに、なんと息子が待ち切れずに中国でiPodを買ってしまった。仕方なく自分で使うことにしたが、これがすばらしく自分には使いやすいものだった。CDやポッドキャストの番組が膨大に入り、簡単に聞くことができる。音楽をiTuneで購入するという点

にはまだ何となく抵抗があったが、音楽に限らず持っている講演のCDをかたっぱしからiPodの放り込んでも、まだまだ余裕がある。まだタッチパネルではなかったが直観的な操作で、使い勝手の良さに感心をした。暫らくすると今のタッチパネル操作に近いiPod Touchが発売された。また確か初代のiPhoneも発売された。iPhoneはまだ電池の持ちに問題があったようで、食指が動かず、また幸いな事にiPodを紛失してしまっただので、早速新型のiPod Touchを購入した。iPodはすでに携帯電話同様、自分の生活に必須なものになっていた。iPod Touchは無線LANに対応しており、電話機能以外はiPhoneと変わらぬ操作と機能を持っていたが、残念ながら従来のiPod以外の操作は使いこなせないでいた。文字の変換、入力も自分の太い指のせいもあり、またあまり要領もわからず、ほとんど使っていないかった。



このアップルの新しい世界の威力を感じたのはやはりiPadに接したからである。従来のパソコンのキーボード操作と違い、さらに従来のタッチパネルの世界とも違う新しい世界が始まったと改めて実感した。直観的でなおかつ楽しくて親しみやすい。文字も写真も動画も通信も一元的に扱えるまさに昔話題にされたマルチメディア端末が本場に登場したのだと感した。その新しさを一番実感したのは昨年の発売初日、事前予約で手に入れた

ある。しかしその家内がマニユアルも何も無いiPadを飽きもせず操作していたことに驚いた。このアプリが開いた世界はどちらかというデジタルデバイスと言われる高齢者や女子供にも急速に普及し、パソコンとははるかに違う社会生活への浸透と変化をもたらすのではないかと思つた。そしてiPhoneの急速な進化、さらにアンドロイド、ウインドウズフォンの登場である。通信機能と位置情報、地図機能などを骨格とし、またクラウド

iPadを持つて清水に帰り、家内に自慢げに見せた時に、家内がすぐさまiPadをいじり始め、なんと数時間ずっと遊んでいたことである。家内は一応町のパソコン教室で初歩の操作やワードなどの勉強はしているようだが、なかなかパソコンを操作しようとして、家内の教える学習塾の教室使りはいまだに手書きで

環境を活用した膨大なデータベースと連携した新しいソフト、サービスが登場しつつある。タクシー業界でも、先号のコラムでも触れた「モバイル交通革命」のインフラがますます整ってきていると思う所以である

ジョブズ氏からの贈り物

コラムの表題の言葉「ハングリーであれ、愚か者であれ」はジョブズ氏が2005年6月に米スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの最後の結びの言葉で非常に有名なエピソードだと思ふ。しかし自分はこの講演（インタートネット）でステイブ・ジョブズスタンフォードで検索すると日本語字幕付きで動画が見ることが出来る）の中で語られた3つの話の最後の話、「死について」に一番共感を抱いている。この講演の前年ジョブズ氏は膵臓ガンと診断され、死に向きあった。奇跡的に手術可能なガンとの事で余命数か月と言われたジョブズ氏は生還し、そ

れ以後2007年のiPhone、2010年のiPadの発売とアップルの一層の興隆をもたらした。彼は講演の中でこう述べている。「自分はまもなく死ぬという認識が、重大な決断を下す時に一番役立つのです。なぜなら永遠の希望やプライド、失敗する不安：これらはほとんどすべて、死の前には何の意味もなさなくなるからです。」「死は多分生命の最高の発明です。それは生物を進化させる担い手。古い物を取り去り、新しいものを生み出す。」「あなた方の時間は限られています。だから本位でない人生を生きて時間を無駄にしないでください」

禅を通じ仏教徒になったと言われるジョブズ氏の死生感「必ず訪れる死」を意識し、見つめることによつて逆に囚われない生を一杯創造的に生きることを目指していたのではないかと思う。見事に全力で走り切つた生であり死であると思ふ。

(2011年10月24日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器  
**ALC-miniⅢ**  
**¥83,000**より

アルコールだけに反応  
コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！  
吹き込む・測定する・記録する、の  
カンタン3ステップアルコール測定！

音声ガイドで  
カンタン測定

販売台数  
**No.1**

※(株)矢野経済研究所調べ(2010年7月現在)  
・2009年 営業所設置タイプアルコール検知器  
アルコール検知器市場 営業所設置タイプ メーカー出荷数重ベース

東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた皆さま、ご家族の方に心からお見舞いを申し上げます。震災にあわれました弊社製品をご使用の皆さま、製品でお困りのことがございましたら下記のフリーダイヤルまでお問合せください。

フリーダイヤル

**0120-609-100**

お申し込み  
お問い合わせ

株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店 〒110-0016 東京都台東区台東 3-16-5 ミハマビル2階 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元

東海電子株式会社  
http://www.tokai-denshi.co.jp